

メタデータシステム先導による沿岸域情報管理

Information management of coastal area guided by metadata system

沿岸域断層調査研究グループ 古宇田 亮一 [1]

Kouda Ryoichi Fracture Assessment Group of Coastal Area[1]

[1] -

[1] -

<http://www.aist.go.jp/>

地球環境問題の解決のため温暖化物質の削減が求められており、省エネルギー・高効率化と並んで、二酸化炭素の削減は必須な状況である。その切り札として考えられているのが、二酸化炭素の地中貯留であり、大規模排出源と組み合わせることで、低い排出を実現できる。例として、石炭火力発電など、従来は温暖化に寄与してしまうと考えられていた古典的な電力も、地中貯留技術と組み合わせることで、排出の少ない効率的で資源有効活用型に変わりうる。その鍵を握るのが、大規模排出源が多く立地する沿岸域である。この沿岸域は人口も集中しているところが多く、ひとたび災害が発生すると社会的なダメージも大きい。そのリスク管理と持続的開発は、既存知識を有効活用しつつ、常に、新たな情報でレベルアップする必要がある。即ち、一旦情報が得られればずっと使い続ける従来型システムと異なり、頻繁な更新と過去情報の活用に検索も対応できることが必要である。このような、地層を利用する産業に近年出現している新たな情報管理方式として、メタデータシステム先導による方法がある。メタデータは、データ実体がどのような属性項目で構成され、どのような履歴を持ち、どこに保存され、あるいは、どのようにアクセスして使うことができるかが記述される。データ実体そのものや、単純化されたキーテーブルでなく、よく組織化され標準化されているメタデータシステム先導型情報管理システムを構築することによって、データの利便性が一層増すと期待される。沿岸域の地下構造を利用する二酸化炭素削減対策には、メタデータを中核とする情報管理が必須になると考えられる。